

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25301009

研究課題名(和文) 伝統文化・歴史を重視するアジア農村発展モデル提唱をめざす実践型地域研究

研究課題名(英文) Establishing an Alternative Asian Development Model Having Respect on Traditional Culture and History through the Practice Oriented Area Study

研究代表者

矢嶋 吉司 (Yajima, Kichiji)

京都大学・東南アジア研究所・研究員

研究者番号：90444489

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ラオス国立大学農学部と農村住民が協働し、生活・生業の道具の収集と保存、住民の記憶の掘起しと記録を通して、伝統文化や歴史の意義を再認識し「村に生きる誇り」の回復を目ざす実践型地域研究として実施された。

村落誌やデータベースが編集されたことに加え、主体的に伝統文化や歴史の調査に参加し協働した大学教員・住民など関係者の意識と能力が向上したことも本研究の成果である

研究成果の概要(英文)：For reactivation and sustainable development of the rural community, it is essential for the people to proud to live in the village.

In collaboration with the scholars of Faculty of Agriculture, National University of Laos and the villagers, the practice-oriented study by collecting and preserving traditional tools and village history were carried out for encouraging the villagers to realize the value of the own traditional culture and history. Besides compilation of a village note and database of the tools, skills and awareness of the stakeholders also developed in this study.

研究分野：住民参加型農村開発

キーワード：伝統文化・歴史の重視 集落民俗文化資料館 実践型地域研究 村落誌 農村コミュニティの再生 国際共同研究 次世代への継承

1. 研究開始当初の背景

日本の復興と経済発展は、工業化と生活の近代化を目差す開発政策により達成された。しかし、現在、大都市に人口が集中は繁栄する一方、中山間農村は過疎と高齢化のため地域社会は弱体化し崩壊の危機に置かれている。工業化や近代化による経済発展を進めるアジアの諸国では、仕事や高等教育の機会を求めて、多くの若者たちが地方農村から都市へ移動している。アジアの農村でも過疎と高齢化という日本の農村が直面する問題を追いかけている。この問題は、社会の崩壊とともに農業を衰退させ食料の安全保障を危うくさせる。これらの問題の軽減に対応することが緊急に求められている。

日本の都市には年金を受給する農村出身者が多く住んでいる。村に暮らせる経済状態であるにもかかわらず、生まれ故郷に帰り暮らす人は少ない。このことから村で暮らすためには経済的側面とともに、村に生きる意義・喜び・誇りなど精神的側面の充足も重要である。

日本では、地域振興策として集落文化資料館・民俗資料館が各地に設置された。観光振興とともに伝統文化や歴史を地域住民が再評価し次世代に繋いで行く重要な役割が期待される。伝統文化や歴史の再評価を通して進められる日本の地域再生の手法と精神をアジアの開発途上国が活用し、過疎と高齢化という危機に備えることが課題である。

科研費補助金基盤 C(代表:矢嶋、2010-2012)では、ラオスの農村で集落民俗文化資料館活動を通して「村に暮らす誇りや生きがい」の再生を試み、また、京都大学生存基盤科学研究ユニット滋賀サイト研究(代表:安藤、2008-2011)では、住民、大学、地方行政の協働を通しての地域再生に取り組んだ。これらは、地域社会が直面する課題の克服のための社会的ニーズに対応する実践型地域研究であった。本研究は、これらの先行研究を継続し発展させる目的で計画された。

2. 研究の目的

アジアの農村には地域に根ざした個性豊かな文化がある。しかし、経済と近代化を目差す既存の農村開発はこの個性を否定した。世代を超えて受け継がれてきた伝統文化や歴史の安易な否定は、「村に暮らす誇りや生きがい」を奪い、人々の精神的な結束を弱めた。農村では高齢化や過疎化が進み、地域社会の崩壊という危機的な状況となったのである。現在、これらの問題の軽減に貢献できる新しいアジア農村開発モデルが求められている。

これまでの農村開発研究は、研究者がモニターとして参加することが一般的であった。しかし、農村の課題の軽減という社会的ニーズに対応してきたとは言い難い。本研究は、実践を「客体」としてではなく「主体」として捉える実践型地域研究の手法によって、ア

ジアの国々が直面する深刻な農村問題を軽減する当事者的研究として、ラオスの農村で大学研究者が農村住民と連携協働して、

(1) 伝統文化・歴史の記録としてのデータベースの作成し、地域の記録として保存する、

(2) 実践活動への参加を通して関係者の意識と能力向上などの人材を育成する、などの実践を通して、

(3) 伝統文化と歴史の重視による「村に暮らす誇りと生きがい」の回復が、過疎と高齢化という問題を軽減するという社会的課題に対して有効かつ貢献できることを明らかにするとともに、

(4) 経済発展に偏った既存の農村開発に対し、個性豊かな文化や歴史を重視する「アプローチ」に取り組む実践型地域研究が農村開発という実践的課題に対応しうる学問的手法であることを示すことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、日本とラオスの大学研究者とラオスの農村住民が、実践活動に主体的に参加し連携協働する実践型地域研究を手法とする当事者的研究である。

ラオス国立大学農学部ラオ農民伝統農具博物館とビエンチャン市 T 村集落民俗文化資料館の活動を、伝統文化や歴史、在地の知恵・技術の積極的な評価と再認識をめざす「農村開発」実践と位置づけ、以下のアクションリサーチを行った。

(1) 伝統文化・歴史を再認識と記録保存の実践のため、

① T 村の伝統文化・歴史の聞き取り調査と記録による村落誌作成

② 住民が収集した集落民俗資料館の収蔵道具類の調査とデータベース作成

③ 農学部教員による博物館に収集された農具民具の分類整理とデータベースの作成

④ 住民による村の日常の映像・音声の記録とコンピューターによるドキュメント作成

(2) 住民参加による集落民俗文化資料館の活用とコミュニティ活動の推進

(3) 伝統文化・歴史に関する人材育成研修と農村調査

① 伝統的道具の収集および記録技術の日本国内研修を、ラオスの農学部教員と住民を対象に京都府亀岡市文化資料館で実施。

②T 村住民に対する記録記述など農村調査トレーニングを実施。農学部教員が調査の記録報告作成技術、コンピューター技術を指導。研修後、ラオスの農村で教員と住民の合同調査を実施し、調査技術の確立と他と比較して自文化の再認識能力の向上を図った。

(4) 自文化再認識と相互学習の機会となるワークショップ参加と報告

①京都府南丹市美山町で開催された国際草の根ワークショップに参加報告し、過疎農村を訪問し知見や経験を学習し住民との相互理解を促進。

②集落ワークショップを開催し、実践活動の参加者の報告を通して村民の理解を促進。

4. 研究成果

本研究の成果を以下に列記する。

(1) 伝統文化・歴史の再認識と記録の保存

T 村は1988年戦争で故郷を離れた黒タイ族の農民たちによって開村され、他民族の移入を徐々に受け複数の民族が混住する歴史の浅い村である。本研究では、村民たちが伝統文化・歴史を自ら調査記録することで、自文化を認識し多様な村社会を公開の場で確認することができた。その結果を、文化や歴史を次世代に継承する村の記録とした。

①T 村の村落誌

村の草分け世帯6世帯8名と後に移入した5世帯6人の定住に至る記憶、村の開発プロジェクトと行政の歴史、生業などが村落誌に編集され、民族資料館の資料として保存される。(ラオス語はすでに一部が英訳されたが、今後日本語へ翻訳しwebで公開の予定)

②集落民俗文化資料館の収蔵道具調査とデータベース作成

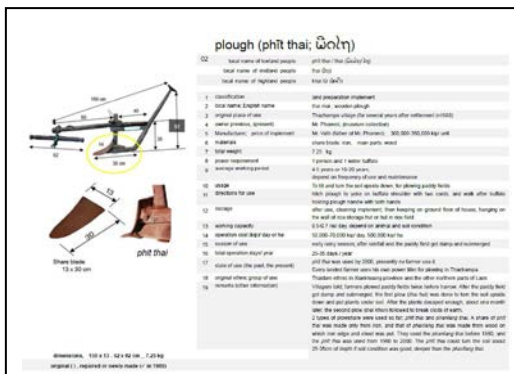


図 1. T 村文化資料館 図録集

村民が収集した民具や農具がT村集落民俗文化資料館に収蔵されている。その中の72点の道具が図録に編集された。新しい世代のために、使用方法など各道具の詳細情報を記録した。T 村の資料として村で保管するため

ラオス語で作成されたが、一般に公開するために英語バージョンも作成。(日本語に翻訳しwebで公開の予定)

③村の日常生活の映像の記録

T 村では、村の行事や出来事の記録を残すために、担当者を決め写真やビデオの撮影を始めた。村ではスマートフォンが普及し写真やビデオを撮る村民もいたが、村の公の活動として伝統行事や日常生活の映像を残そうとする意識の表れである。

(2) 農学部ラオ伝統農具農民博物館の運営向上と収蔵物の整理と活用

①農学部博物館運営能力の向上

本研究では、日本での研修で学んだ道具調査の知識(整理と記録、展示方法など)と経験が、農村調査計画と調査票の作成、博物館収蔵品の分類整理と展示、データベース作成などに役立った。骨董品と見なされがちであった収蔵物の整理では、材料や使用法、各部の名称など詳細情報の重要性が理解され作業に活用されている。

②博物館の収蔵物整理とデータベース作成

約500点余りの農具民具が、農学部博物館に収蔵展示されている。教員が分類整理に取り組みラオ語のデジタルデータベースを作成した。随時更新公開する予定であり、伝統文化の基礎情報として活用を期待する。

③農学部博物館の重要性の理解

ラオスでは機械化が進み、農村でも牛犁などの伝統農具はほとんど残っていない。農学部は訪問者に重要施設として博物館を紹介するなど、伝統農具の収集保存を行う農学部博物館の活動が注目を集めている。政府や大学の行事には農学部博物館がブースを設けて展示するなど活動紹介が行われ、博物館の役割と重要性が認識されるきっかけとなった。

(3) 集落民俗文化資料館活用とコミュニティ活動の促進

暴風で破損した屋根の修理、天井改修や外壁塗装などの工事が、村行政の責任で実施されるなど集落民俗文化資料館の維持管理体制が確立し、村の集会場や村事務所として使用されコミュニティ活動の基地として活用されている。

(4) 相互学習による能力向上と人材開発

日本の中山間農村訪問とラオスにおける農村調査での異文化や他村との交流が、自文化の理解や再認識を促進した。教員と協働作業は、調査方法や記録の仕方など村民の能力向上に寄与した。農学部では、村民の記録を残す技術向上の一環としてコンピューターの研修を行うなど村の人材育成に取り組ん

でいる。ワークショップで活動報告をするなど村民の能力向上が進んだ。

度重なる移動により他民族との混住が進むラオスでは、民族固有の伝統や文化は忘れ去られようとしている。T村でも村民は村の平和な暮らしのために、異民族の行事やしきたりに積極的に参加して無益な争いを避けているようだ。しかし、民族の伝統や昔の生活を話す村民の幸せそうな姿や、「言葉や伝統が変わって行くことは止たちに伝えたい」と述べた黒タイ族の老女の言葉から、伝統文化や歴史に対する強い思いが伝わってくる。

伝統文化や歴史を記録し公の財産として村に保存共有することが、自文化と社会の多様性の再認識に役立つことは、本研究から明らかである。そして、大学研究者と農村住民が主体的に参加し、連携協働して進められる当事者的研究である実践型地域研究が、アジアの深刻な農村問題を軽減するという社会的ニーズに対応することができることも成果として挙げておきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

雑誌論文] (計15件)

① Kichiji YAJIMA, Kazuo ANDO, Lampheuy K., Souphaphone R., Bounthone K., Khamchane S., Lamchai S., “Village Cultural Museum as a Facility for Sustainable Rural Development – Revaluation of Importance of Traditional Culture and History accumulated in Local Community –”, 1st Agricultural Science, Technology and Development Conference (ASTDC2015), Faculty of Agriculture, National University of Laos, 査読無、2015、50

② 安藤 和雄、「場における当事者的関係性が進める実践型地域研究」、21世紀の東南アジア研究 - 地域社会への発信 (小泉 他編)、京都大学東南アジア研究所、査読無、2015、103-105

③ 安藤 和雄ほか、「相互啓発実践型地域研究としての京都大学交際交流 科目「ブータンの農村に学ぶ発展の在り方」現地スタディー・ツアー報告」、ヒマラヤ学誌、査読有、2015、42-65

④ Kazuo ANDO, Yoshio AKAMATSU, Khin Lay Swe, “Learning about Locally Existing Technologies by Rapid Rural Appraisal in the Village, Kanapalet Township, Chin State, Myanmar”, Research for Tropical Agriculture, JATA, 査読無、Vol.9 Extra Issue 1, 2016、34-35

⑤ Kazuo Ando, Helal Uddin FARAS and Samima NAZIM, “PRA on Emergency for Agricultural Damage By Cyclone in Hatiya Island”, Proceeding of ISSAAS 2015 & 118th JSTA International Joint Conference Agricultural Sciences for Sustainable Development, JSSAAS, 査読無、2015、62

⑥ 矢嶋 吉司、「ラオスの伝統文化・歴史の保存の実践ーラオス国立大学農学部との協働を通してー」、第6回 文化と歴史そして生態を重視したもう一つの草の根の農村開発に関する国際会議ー京都府美山町知井 2014年11月15日~17日ー報告書、査読無、6巻、2015、31-36

⑦ Lampheuy KAENSOMBATH, Somboun PHOMSOUVANE, “Story of Village settlement and development with concerning on livelihood activities in Thachampa village, Lao PDR”, 第6回 文化と歴史そして生態を重視したもう一つの草の根の農村開発に関する国際会議ー京都府美山町知井 2014年11月15日~17日ー報告書、査読無、6巻、2015、27-30

⑧ 矢嶋 吉司、「ラオス現地活動報告ー農学部博物館の今後の取り組みー」、ざいちのち実践型地域研究ニューズレター、査読無、67巻、2015、3

⑨ 安藤 和雄、「大川活用プロジェクト・月例美崎寄合参加雑感」、ざいちのち実践型地域研究ニューズレター、査読無、69巻、2015、1

⑩ Inthong Somphou, Kichiji Yajima, Bounthone K., Maiban S., and Souphaphone R., “Conservation of Laotraditional and culture in Thachampa village”, Journal of Agroforestry and Environment, 査読有、Vol.6 No.2, 2013、73-79

⑪ Yajima Kichiji, Ando Kazuo, “Link Model on Rural Development in Bangladesh – Case study: VC formation at T village, Khalihati, Tangail”, Journal of Agroforestry and Environment, 査読有、Vol.6 No.2, 2013、99-103

⑫ 矢嶋 吉司、「ラオスにおける伝統文化・歴史の保存を通じた農村開発ー村に暮らすための人々の知恵ー」、第5回 文化と歴史そして生態を重視したもう一つの草の根の農村開発に関する国際会議ー高知県大豊町 2013年11月8日~10日ー報告書、査読無、5巻、2014、46-52

〔学会発表〕（計16件）

〔図書〕（計3件）

① Kazuo Ando et al.、Department of Practice-oriented Area Studies, CSEAS, Kyoto University、” Paper Collection of Unknown Contemporary Issues of Sustainable Environmental and Rural Development in Myanmar: Highlighting Collaboration with Bangladesh, Bhutan and Japan, Practice-oriented Area Studies Series No.9”、2016、140

② 安藤 和雄編、大川活用プロジェクト、平成26年度大川活用プロジェクト活動報告書、2015、95

③ 安藤 和雄、市川 昌弘編、東南アジア研究所、第6回 文化と歴史そして生態を重視したもう一つの草の根の農村開発に関する国際会議－京都府美山町知井 2014年11月15日～17日－報告書、2015、102

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

① http://laos_museum.cseas.kyoto-u.ac.jp/

② http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/research/grant-in-aid-funding-b/kaken_kichiji_yajima/

③ <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/pas/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

矢嶋 吉司 (YAJIMA, Kichi-ji)
京都大学・東南アジア研究所・研究員
研究者番号： 90444489

(2) 研究分担者

安藤 和雄 (ANDO, Kazuo)
京都大学・東南アジア研究所・准教授
研究者番号： 20283658